

調査名		孔番・深度		観察日								
		B14-2 (60.00 ~ 65.00)		8/27								
標尺 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	細区分				FOD	最大コア長	岩級区分	破碎度区分	記事・破碎性状・詳細スケッチ等
				色調	割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ					
			Gp									<p>2.12 割れ目沿いに細粒化がみられ 露色目状割れ目が5mm程度に開く。</p> <p>下部と上には割れ目沿いの細片化がみられる。</p> <p>60.65m ~ 150.0m 370g/1kg</p> <p>(主軸断面: 61.12)</p> <p>60.85 ~ 61.12 20度の葉 2層 40° 下層 93° の葉 2層 11層</p> <p>60.85 ~ 61.11 m 葉に近しい角閃状の葉状部 (厚さの不均一性)</p> <p>3. 葉に近しい (硬さ) (所相)</p> <p>61.12 ~ 63.47 m 20° ~ 40° 及び 70° の主軸に割れ目と氷に斜交する微細な割れ目がみられる。一部は早付にみられる。下部は割れ目と可成り近接した角閃の露色目状部とみられる。下部には新鮮部がみられる。</p> <p>割れ目沿い: 細片化、一部は粗粒化による。</p> <p>62.97 ~ 63.09 m 向、割れ目密集し脆弱。下端 45° 角閃の結晶。</p> <p>63.47 ~ 64.15 m 上位よりみて、割れ目間隔が狭く (約 5 ~ 10 cm) 。コアは柱状と呈する。割れ目沿いには細片化が認められる。コア自体は硬質である。</p> <p>64.15 ~ 64.82 m 40° ~ 50° の割れ目、3 ~ 10 cm 間隔で分布し、これと平行または斜交する潜在割れ目が発見される。潜在割れ目は容易に分離しない。ハンマーでの打撃で水中に砕け散る。</p> <p>64.26 ~ 64.51 m 上下に立って、変質が進行する。上端 45°、下端 60° 角度で境線する。</p> <p>64.82 ~ 65.32 m 40° ~ 45° の主軸に 40° の割れ目、1 ~ 3 cm 間隔で発達し、コアは片状と呈する。潜在割れ目沿いに変質し、白雲母が存在する。</p>
60.65												
60.85												
61												
61.12												
62			Ap									
63												
63.47												
64												
64.15												
64.26												
64.51												
64.82												
65												

調査名			孔番・深度	B14-2 (65 ~ 70)		観察日						
標尺 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	細区分					最大コア長	岩級区分	破砕度区分	基盤岩コア観察カード 記事・破砕性状・詳細スケッチ等
				色調	割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化				
65			Ap 5YR 7/1 腐灰 2.5YR 7/1 明腐灰	C	V	C	Y	2		CL		<ul style="list-style-type: none"> <li>65.32 m. フリル状の中6mm L45° 灰白石灰泥(ミ)粘土。</li> <li>65.32~65.86m. 上下位と比べて、風化・変質・進行し、コアは脆弱化する。</li> <li>割れ目沿いに膜色、細片化が認められ、割れ目、割れ目腐食化。又、有色鉱物同様に腐食化している。</li> <li>65.67~65.86m. コアは若花まで変換(膜色)が進行し、灰白~浅黄色を呈する。(2.5Y7/2~7/3)。</li> <li>65.85m. 中1mm, L34° 灰白粘土 挟在、マンガン濃集帯。</li> </ul>
	65.32											
	65.67											
	65.86											
66			66.06 66.35 66.83 66.86 66.88 66.90							CL CM		<ul style="list-style-type: none"> <li>66.86~66.06m. 不規則に粘在割れ目割れ目発達し、ハンマーの打撃で分離しやすい。</li> <li>66.06~67.38m. 40~50°の割れ目あり、2~5cm 間隔で割れ目発達。これと斜交する方向にL65°以上の高角割れ目も発達する。</li> <li>66.06~66.81m 間では、高角割れ目の方向は空着している。</li> <li>割れ目 空着割れ目の方向で"腐食化"が認められる。</li> <li>66.86m. L45°の割れ目(中15mm)、岩質劣化する。</li> <li>66.90m. 中1mm, L45° 凝集粘 石灰泥(ミ)粘土挟在。</li> </ul>
	66.06											
	66.35											
	66.83											
67			67.30 2.5Y 8/1 黄灰							CL		<ul style="list-style-type: none"> <li>67.38~67.61m. 風化・変換が強く受け、コアは指圧で壊れるほど脆弱である。上部はL35°、下部はL20°で発達する。これ以降、上位と比べて風化の影響を強く受ける。</li> <li>67.51~68.23m. L50~70°の割れ目あり、2~5cm 間隔で交差し、コアは片状を呈する。又、高角の潜在割れ目も全体に発達する。</li> <li>割れ目沿いに細片化が認められ、岩片は石灰質である。</li> <li>68.23~68.63m. 風化・変換が著しく、岩組織・割れ目不明瞭となる。上部はL50°、下部はL20°で発達する。下部は割れ目の不明。カクレ割れ目様(?)の岩相。</li> <li>68.23~68.33m. 細粒に、変換粘土分布する。(H)様。</li> <li>68.42~68.63m. 中石~角石架状を呈する。(H)。</li> <li>68.48~68.57m. コアはカクレ割れ目帯である。</li> </ul>
	67.22											
	67.30											
	67.38											
68			68.63 68.77							D		<ul style="list-style-type: none"> <li>68.63~70.03m. L40~50°程度の割れ目あり、中石~角石架状の潜在割れ目あり、1~3cm 間隔で発達する。割れ目沿いに、岩質劣化する。</li> <li>細粒化を以て細片化が著しく、また、潜在割れ目も、ハンマーの打撃で分離しやすい。</li> <li>68.73~69.00m. 69.19~69.25m 間は、上位と比べて、33%風化変換し、コアは軟弱となる。一部は指圧で壊れる。</li> </ul>
	68.23											
	68.63											
	68.77											
69			69.42 10YR 6/1 腐灰							D		<ul style="list-style-type: none"> <li>69.18~69.22m. 中30mm. 上部L60°、下部L45° (ミル石灰泥) 石灰泥を呈する。上下粘土、割れ目程度石灰泥(ミ)粘土を呈する。</li> <li>69.42m L45° } 割れ目1mm~1cm 変換粘土 (明片-灰) 粘土。</li> <li>69.72m L40° } 白雲母を伴う。</li> <li>69.80m L45° }</li> <li>69.96m. L75°以上の高角変換部、指圧で容易に崩れる。</li> <li>70.00m. 全体にマンガンを伴う。</li> </ul>
	69.42											
70												0 7

調査名		孔番・深度		観察日								
		B14-2 (70 ~ 75)		8/28								
標尺 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	細区分					最大コア長	岩級区分	破砕度区分	基盤岩コア観察カード 記事・破砕性状・詳細スケッチ等
				色調	割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化				
70	70.05		5YR 6/1 福灰	d	VI	D	8	3	10	10	C <sub>L</sub>	<p>70.03 ~ 70.33 m. 割れ目が多し、細粒状の割れ目による岩組織は不明瞭となる。全体に粘土細脈が分布し、コアは軟質である。(カワラ-91-11に採取した)。</p> <p>70.03 ~ 70.14 m. マンガンが濃集する。一部は指圧で崩れる。</p> <p>70.16 m. 70.16 m. 以上断面割れ目、石炭が印されている。</p> <p>70.33 ~ 70.88 m. 40°程度の割れ目が卓越し、0.5~4cm 間隔で発達する。割れ目の空集部では種変換が進行する。コアは板状、片~短柱状に採取される。岩片は硬質である。</p>
	70.33											
	70.50											
	70.78											
	71	71.05		Ap	71.32	C	IV	C				
71	71.32											
71	71.66											
71	71.79											
72	72.14		72.14	C	IV	C	Y	2	15	15	C <sub>M</sub>	
72	72.54											
72	72.76											
73	73.00											
73	73.17											
74	73.59		5YR 7/1 明福灰	b	III	B	Y	2	11	11	C <sub>M</sub>	<p>73.53 ~ 73.74 m. 40°の割れ目が、1~5cm 間隔で発達し、割れ目沿いに、変換が進行する。割れ目面は、ホ-灰色を呈し、白雲母を伴う。</p> <p>73.74 ~ 73.83 m. 10mm 程度、40°割れ目間、変換(脱色)が顕著で、有色鉱物は褐色化し、全体は軟質化している。</p> <p>73.74 ~ 74.95. 40~50°の割れ目が、2~15cm 程度の間隔で発達する。割れ目面がホ-灰色化が、岩片は新鮮。コアは、片~柱状を呈し、硬質である。</p> <p>74.30 ~ 74.86. 割れ目間隔が(20°)、コアは粗粒を呈する。</p>
	74	73.74										
	74	73.93										
	74	74.30										
	74	74.49										
75	74.95		74.95	C	IV	C	Y	2	15	11	C <sub>M</sub>	
75	74.95											

調査名		孔番・深度	B14-2 (75 ~ 80)	観察日	8/29												
標尺 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分				最大コア長	岩級区分	破砕度区分	<b>基盤岩コア観察カード</b> 記事・破砕性状・詳細スケッチ等					
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化					変質	ROD			
75	75.05		AP	5YR 7/1 明 褐 灰	C	V	B	Y	2	11 14	14	75.91	CL	75.29~75.91m L40° 割れ目 L75° 程度で割れ目状発達し、 北西と斜交する潜在割れ目状分布。 割れ目状に潜在割れ目3つは岩塊化し、上位に比べて やや脆弱である。 75.35m付近、L35°の割れ目に沿って、中8~20mm 岩塊化 し土砂状を呈す。コア採取時細粒分一部流失す。			
	75.24	IV															
	75.50	V															
	75.74	II															
	75.91	V															
76	76.27				b	IV	B			12 12 14	14	77.00	CM	75.91~77.91m L40~60° の割れ目状、5~20cm 間隔で発達す。 割れ目3つは、変換(脱色)し、割れ目面は白~7灰色を呈す。 コアは硬塊で短柱~柱状を呈す。 76.27m 以深、潜在割れ目は少なくなった。 77.00~77.91m 割れ目間隔広(た)。コアは長柱状を呈す。 77.38m L40° 割れ目面は、黄鉄鉱が濃集す。			
	76.44																
	76.70	III															
	77.00	IV															
	77.17	III															
77	77.17		2.5Y 7/1 灰 白			III				12 20 16 18 15	14	77.91	CH	77.91~78.25m L40~60° の割れ目 不規則な高角割れ目状 発達し コアは片状を呈す。 割れ目3つは細粒化+脱色が認められるが、岩片は硬塊。			
	77.91																
	78.25																
	78.44																
	78.61																
78	78.61		7.5YR 7/1 明 褐 灰		C	V	B			10 10	10	78.81	CL	78.25~79.14m L20~40° の割れ目状、2~10cm 間隔で発達 し、コアは片~短柱状を呈す。 割れ目面は褐変色を以て、緑灰色化し、5%の空目目に白雲母 を伴す。 割れ目3つは細粒化し、空目目の割合も低く、 (一部流失す)			
	78.81	IV															
	78.91																
	79.14																
	79.42																
79	79.42		7.5YR 6/1 褐 灰			V				10 10	10	79.79	CL	78.44~78.61m 割れ目交錯し、コアは片状を呈す。 79.14~79.79m L40~50° の割れ目状、1~3cm 間隔で発達し、 コアは片状を呈す。空目目3つは脱色+細粒化を進行す コア採取時、細粒分を流失している。 79.42m 中5~10mm、L20° 灰色帯、石英の粒が5%ある。 79.64~79.79m 上下位に比べて、変換と脱色(欠け)、コアは軟塊化 している。又、割れ目3つは褐色化+空目目。			
	79.79																
	79.81																
	79.91																
	79.99																
80	79.99													79.77m 中8mm、L40° 灰白~暗褐色を呈す。3%土砂状を呈す。 79.77~79.79m、中10mm、L40°			

調査名		孔番・深度		観察日							
		B14-2 (80 ~ 85)		8/29							
標尺 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	細区分				最大コア長	岩級区分	破砕度区分	<b>基盤岩コア観察カード</b> 記事・破砕性状・詳細スケッチ等
				色調	割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ				
80			AP	7.5YR 6/1 褐灰	C IV	B	γ	2			79.79~82.13 40~50°の割れ目あり。3~8cm 間隔で発達し。 コアは柱状と呈する。割れ目面の一部は、カ-ブ灰色を呈し、 白雲母を伴う。 割れ目沿いに脱色外認められるが、岩質は不変質である。 80.63m~81.47m、70°以上の高角割れ目が発達する。 割れ目面凹凸し、風化変質、採れ物は認められない。
81											81.25m、74°、1.2m、黄鉄鉱が割れ目に付着する。 81.40~81.76m、730~50°の割れ目交錯し、コアは片状で割れ目沿いに細片化し、コアの結合が悪く、 コア崩壊による(?)。
82	82.03 82.05 82.13 82.40			82.40 5Y5/1 褐灰	B III	B	β	2	82.13		82.13~83.59m、上位と比べて、割れ目間隔が(70°) (10~20cm 程度) 40~50° コアは柱状と呈する。 割れ目面は純白~カ-ブ灰色を呈し、白雲母、黄鉄鉱の付着が認められる。 本、割れ目沿い、カ-ブ潜在割れ目沿いに脱色外認められる。
83	83.03 83.59 83.77 83.88			83.03 10YR 7/1 灰白	C IV III			26 20 15			83.88~83.83m、730~40°の割れ目が密集し、割れ目沿いの一部で細片化する。 又、白雲母、黄鉄鉱の付着が目立つ。 83.59~83.88m、730~50°の割れ目あり、4~10cm 間隔で発達し、 不規則な高角潜在割れ目も分布する。 上位と同様に、割れ目沿いの脱色外認められるが、より明確に認識できる。
84	84.54 84.83			84.54 5YR 6/1 褐灰	b V III	B	β	54 19			83.88~84.54m、745°程度の割れ目あり、10~20cm 間隔で発達し、 コアは柱状と呈する。コアは不変質である。 84.16~84.46m、770°以上の高角割れ目あり、認められるが連続性悪く消失する。 84.54m、745°割れ目面に、珪酸塩物(石英?)の微晶が露出する。 84.54~84.83m、割れ目間隔狭くなり、割れ目沿いの岩質が細片化し、 82.83m、740°割れ目に、7μm~11μm 方向の細片化(細片化)を伴う。
85					V C	γ	3	16 10			84.83~85.06m、割れ目間隔1~2cm 程度と密になり、上位と比べて変質進行し、コアは軟弱となる。

調査名		孔番・深度	B14-2 (85 ~ 90)	観察日	8/29								
標尺 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分				最大コア長	岩級区分	破碎度区分	<b>基盤岩コア観察カード</b> 記事・破碎性状・詳細スケッチ等	
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化					変質
85	85.06		Ap	SYR 6/1 褐灰	C	V	C	Y	3	C <sub>L</sub>		85.06 ~ 87.74 230 ~ 40° の割れ目あり。5 ~ 30cm 間隔で発達し。 コアは 粒状と主とする。 85.14 ~ 85.64m. 割れ目面の 変質は認められず。 85.28m. φ1.5mm. 235°. 石英脈。 85.69 ~ 86.28m. <60~70° の 変質 割れ目あり 発達し。 コアは 3/4 ~ 2/3 脱色する。 一部は開口 (分離) し、細粒化を伴う。 86.76 ~ 87.52m. 高角度で 湾曲した 割れ目あり 分布する。 割れ目 3/4 には 細粒・細粒化し、86.58 ~ 87.00m. は 岩質 劣化部を伴う。 また、86.50 ~ 86.58m 間には、割れ目面に 珪質鉱物 (石英) 晶出する。	
	85.14	14						2	30				C <sub>H</sub>
		III			B			17	17				
					b	β							
86	85.82							66	C <sub>M</sub>				
	85.96	76						30					
		IV											
		C											
87	86.27							39					
		47						11					
		III						13					
		C	B	β	2	58	39						
88	87.43							29					
		72						13					
		IV						20					
		C	B	β	2	58	39						
89	88.21							67	C <sub>H</sub>		87.61m 以深 240 ~ 60° の割れ目あり 99° 左右。 87.61 ~ 88.31m. 240 ~ 60° の割れ目あり。また、240° 潜在割れ目あり 分布し、光水に浴びて 脱色する。 割れ目面は オリーブ 灰色を帯びる。 87.73m. 240° 割れ目にて 変質鉱物 が 認められる。 88.22m 243° 割れ目は、暗オリーブ 灰色化し、石英晶出する。 88.22 ~ 88.30m 間、珪質の 石英鉱物 多量に 含み、コアは、暗色帯を呈す。		
	88.31	31						10					
		b	III	β				18					
								22					
90	88.90							63	C <sub>M</sub>		88.90 ~ 89.09m 245° 傾度の割れ目あり。0.5 ~ 3cm 間隔で 発達し、一部割れ目沿いに 細粒化する。 コアは 脱色外 認められず。岩質は 硬質である。 89.09m 243° 割れ目は、緑灰色化し、石英粒 (0.03 ~ 0.5mm) あり 晶出する。 89.42m 250° 割れ目より 石英晶出する。 89.55m 246° 89.74 ~ 235 ~ 55° の割れ目あり。2 ~ 6cm 間隔で発達し。 コアは 片状と呈する。		
	88.90	70						13					
		IV						16					
		C	III	β	2	63	22						
90	89.09							13	C <sub>L</sub>				
	89.74	14						11					
		IV	C	Y				17					
								17					

調査名		孔番・深度		観察日								
		B14-2 ( 90 ~ 95 )		8/29								
標尺 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分				最大コア長	岩級区分	破碎度区分	<b>基盤岩コア観察カード</b> 記事・破碎性状・詳細スケッチ等
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化				
90	90.08				IV							90.08~90.56m: 中角度の割れ目が多く、主に岩片状に碎れ、採取される。  91.08~91.13m: 細かく割れ目が多く、変質も認められ、細碎れに採取される。 91.13m~91.18m: 40°の割れ目に黄鉄鉱品出。  91.48~91.63m: 中角度の割れ目が多く、主に岩片状に碎れ、採取される。  92.13m~92.63m: 割れ目の一部に黄鉄鉱品出。  92.63~93.58m: 割れ目間隔が10cm以上となり、コアは柱状。  93.69m~94.00m: 40°の割れ目に黄鉄鉱品出。  94.00~94.67m: 低一中角度の割れ目が多く、岩片状に碎れ、採取される。  94.24m: <45°の割れ目に厚さ12mmの灰白色砂質粘土が存在。 94.34m, 94.37m: <40°の割れ目に黄鉄鉱品出。
	90.56				V							
	90.92				IV							
91	91.14				V			11	11			
	91.48				IV	C				CL		
	91.63				V							
92	92.13				IV			0	9			
	92.63		Ap	5FR 91 (細鉄)	C			2				
	92.97				III							
93	93.58				IV	B	β	47	16	CM		
	93.69				IV							
94	94.00				V	C		0	6	CL		
	94.24				V							
	94.34				IV							
95	94.67				IV			0	7			

10  
10  
11  
16

調査名		孔番・深度		観察日								
		B14-2 (95~100)		8/29								
標尺 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分				最大コア長	岩級区分	破碎度区分	<b>基盤岩コア観察カード</b> 記事・破碎性状・詳細スケッチ等
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化				
95	95.07				IV							95.07~96.03m: 中角度の割れ目が多く、岩片状に碎砕状と採取できる。  95.34~95.43m: 細かな割れ目が見られ、細砕状と採取できる。 95.26m: ほぼ垂直の割れ目に厚さ1mm程度のセリが存在。
96	95.03				IV				0	5		
	96.33				IV							96.38~96.59m: 中角度の割れ目が見られ、主に碎砕状と採取できる。 96.42~96.64m: 変質が認められ、やや軟質となる。 96.54~96.64m: 細かな割れ目が見られ、主に細砕状と採取できる。  96.80~96.97m: 変質が認められ、やや軟質となる。
	96.54				V	D			3	5		
	96.64				d-VI	D			3	5		
	96.80				C	V	P		3	5		
97	97.06								0	5		97.50~97.49m: 中-高角度の割れ目が多く、主に岩片状に碎砕状と採取できる。 97.83~97.86m: 細かな割れ目が見られ、細砕状と採取できる。
	97.50				III	B	β				CM	
	97.60		Ap				γ					
	97.83				V	C						
98	98.09								23	13		98.28~100.40m: 不規則な割れ目が多く、主に岩片状に碎砕状と採取できる。
	98.28				IV	B			2			
							β				CL	
99									0	9		99.61~99.66m: 細かな割れ目が多く、変質が認められ、やや軟質となる。
					V	C						
100									0	9		



調査名		孔番・深度		観察日								
		B14-2 (100 ~ 105)		8/29, 8/30								
標尺 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分				最大コア長	岩級区分	破碎度区分	基盤岩コア観察カード 記事・破碎性状・詳細スケッチ等
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化				
100												
	100.40			7.5YR 7/1 (明褐色)	c	V	C		2			100.40-100.52m: 細かい割れ目が発達し、変質を受つてやや軟弱で、碎粒状土質状と採取される。
	100.52				d	VI	D		3			
	100.75				c	IV	C		2			100.75-101.03m: 変質の明瞭をやや軟弱である。
	100.90				c	V	D		3			100.90-101.03m: 細かい割れ目が発達し、土質に近い状態と採取される。
101	101.03				d	VI	D		3	7		
	101.38				c	V	C		2		CL	
	101.47								3			101.47-101.52m 破碎帯
	101.52				a	VI	E		4		HJ	101.47-101.50m: 硬弱を受つ、変質も若く、灰白色の砂状土質と採取される。 <25 (HJ)
												101.50-101.52m: 粘土混じりの砂状土質 (HJ)
					c	V	C		2			
102	102.09								0	8		
	102.55		AP	5YR 6/1 (褐色)	b	IV	B	β	2			102.55-102.94m: 中角程度の割れ目が多く、片状~細粒状と採取される。
	102.77				c	V	C					
	102.94											
103	103.11			5YR 7/2 (明褐色)	d	VI	D		3	8		102.94-103.11m: 細かい割れ目が発達し、変質も明瞭で、片状土質と採取される。一部灰白色の土質も混在する。
												103.11-103.93m: 中角程度の割れ目が多く、低角度の層状割れ目も発達する。全体は弱く変質を受つてくる。
					c	V	C					≡ 替に割れ目も力なく柱状コアと主とする。
104	103.93								2	8		
					b	IV	B	β			CM	
	104.44			5YR 6/1 (褐色)	c	V	C				CL	104.44-105.54m: 中角程度の割れ目が多く、主に片状と採取される。
105												

調査名		孔番・深度	B14-2 (105 ~ 110)	観察日	8/30							
標尺 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	細区分				最大コア長	岩級区分	破砕度区分	基盤岩コア観察カード 記事・破砕性状・詳細スケッチ等	
				色調	割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ					風化
105	105.47 105.54 105.61			5YR 9/1 (暗緑色)	C	V	C	β	2		CL	105.54~105.61m 破砕帯 (主として断面: 105.61m) 105.54~105.61m: <45°割れ目傾向の粗粒状変質岩(LC, 石膏状)を導く。反白地粘土質粘土状の存在。 105.61~107.12m: 浅角度の割れ目多し。主として粘土-石膏状と判別される。
106	106.22 107.34				d	VI	E		4		CL	106.22~106.34m: <55°割れ目から導く。この割れ目には白色の石膏が露出。割れ目の周辺には変質が認められる。 106.48~106.69m: <15°, <50°割れ目。厚さ2-3mmの粘土質石膏が介在。 106.68~106.69m: <55°割れ目傾向あり。反白地粘土質粘り粘土が介在。 106.78~106.83m: 変質変質部。<15° 106.78~106.80m: 粘土質砂-粘り粘土。<50° 250μm (粘り度) 106.91~106.92m: 変質変質部。不規則。106.83mの変質部と粘り度連続。
107	107.12 107.21 107.43 107.55		Ap	7.5YR 7/2 (明褐色)	c	V	D		3		CL	107.12~107.29m: 中-高角度の割れ目から。主として粘り度と判別される。高角度の割れ目傾向は変質が進行し、粘土質粘り度と判別される。 107.29~107.45m: 粘り度と判別される。反白地粘土質粘り度と判別される。 107.30~107.31: 暗反色砂質粘土質粘り度 (多量鉄)。厚さ3-9mm。変質部を伴う。<55° 107.45~108.11m: 中-高角度の割れ目多し。主として粘り度と判別される。 107.81~108.11m: 高角度の割れ目傾向あり。変質が進行し、粘土質粘り度と判別される。
108	108.24 108.33 108.61 108.81								3		CL	108.29m: <57°割れ目には反白地粘土2-2mm介在。 108.33~109.10m: 全体に変質を受けた粘り度-明褐色と判別される。粘り度粘り度でも不明瞭である。
109	109.16 109.18 109.30 109.46 109.70			10G4 9/1 (明緑色)	d	VI	E		4		CL	109.16~109.46 石灰質帯 (D-1 石灰質帯) (見出し) 109.16~109.18: 250μm (粘り度) 粘り度。厚さ2-10mm (Hc-2) 109.16 109.18~109.30m: <75°割れ目傾向。厚さ6cm。変質が著し。粘土質粘り度と判別される。上層の2-10mm。下層の10-20cmは砂質粘り度 (Hc-2粘り度) が主要な構成に判別される。 (Hc) (Hb) 109.32~109.46m: <80°割れ目。上層側は粘り度と判別される。粘り度粘り度。厚さ2-10mm。下層側は不明瞭である。割れ目には厚さ1mmの反白地粘土が介在する。(Hj) 109.46~109.70m: <80°割れ目。下層側は。変質を受けた反白地粘り度と判別される。 109.46~112.49m: 高角度の割れ目から。粘り度粘り度と判別される。 109.30~109.32: 砂質粘り度。<80°。厚さ10-20mm (Hc-2) 109.84m: <70°割れ目傾向。厚さ1mmの反白地粘土が介在する。
110				5YR 9/1 (明褐色)					2			

調査名		孔番・深度		観察日									
		B14-2 (110 ~ 115)		8/30									
標尺 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分					最大コア長	岩級区分	破碎度区分	基盤岩コア観察カード 記事・破碎性状・詳細スケッチ等
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化	変質				
110				5YR 7/1 (明褐色)	C	V	C	B	Z				110.12~110.78m: 中角位の割れ目が密集し、細碎状と採取される。
111	110.95		95	5Y 8/2 (暗褐色)						0	5		110.95~111.16m: 変質が著しく暗褐色を呈する。やや堅質で、暗褐色の細碎状と採取される。白色粘土が割れ目等に充填される。
	110.76		76									CL	
	110.55		55							2			
	110.36		36										
	110.16		16							3			110.16~110.36m: 中角位の割れ目が密集し、細碎状と採取される。一部白色粘土が割れ目に充填される。
112	111.78		78	5YR 6/1 (暗褐色)						0	3		111.78~111.86m: 中角位の割れ目が密集し、細碎状と採取される。一部白色粘土が割れ目に充填される。
	111.58		58										111.58~111.78m: 中角位の割れ目が密集し、細碎状と採取される。一部白色粘土が割れ目に充填される。
	111.38		38										111.38~111.58m: 中角位の割れ目が密集し、細碎状と採取される。一部白色粘土が割れ目に充填される。
	111.18		18										111.18~111.38m: 中角位の割れ目が密集し、細碎状と採取される。一部白色粘土が割れ目に充填される。
	110.98		98										110.98~111.18m: 中角位の割れ目が密集し、細碎状と採取される。一部白色粘土が割れ目に充填される。
113	112.28		28										112.28~112.46m: 中角位の割れ目が密集し、細碎状と採取される。一部白色粘土が割れ目に充填される。
	112.08		08										112.08~112.28m: 中角位の割れ目が密集し、細碎状と採取される。一部白色粘土が割れ目に充填される。
	111.88		88										111.88~112.08m: 中角位の割れ目が密集し、細碎状と採取される。一部白色粘土が割れ目に充填される。
	111.68		68										111.68~111.88m: 中角位の割れ目が密集し、細碎状と採取される。一部白色粘土が割れ目に充填される。
	111.48		48										111.48~111.68m: 中角位の割れ目が密集し、細碎状と採取される。一部白色粘土が割れ目に充填される。
	111.28		28										111.28~111.48m: 中角位の割れ目が密集し、細碎状と採取される。一部白色粘土が割れ目に充填される。
	111.08		08										111.08~111.28m: 中角位の割れ目が密集し、細碎状と採取される。一部白色粘土が割れ目に充填される。
114	112.50		50										112.50~113.14m: 新鮮な硬質の柱状と片状と採取される。
	112.30		30										112.30~112.50m: 新鮮な硬質の柱状と片状と採取される。
	112.10		10										112.10~112.30m: 新鮮な硬質の柱状と片状と採取される。
	111.90		90										111.90~112.10m: 新鮮な硬質の柱状と片状と採取される。
	111.70		70										111.70~111.90m: 新鮮な硬質の柱状と片状と採取される。
	111.50		50										111.50~111.70m: 新鮮な硬質の柱状と片状と採取される。
	111.30		30										111.30~111.50m: 新鮮な硬質の柱状と片状と採取される。
	111.10		10										111.10~111.30m: 新鮮な硬質の柱状と片状と採取される。
	110.90		90										110.90~111.10m: 新鮮な硬質の柱状と片状と採取される。
	110.70		70										110.70~110.90m: 新鮮な硬質の柱状と片状と採取される。
	110.50		50										110.50~110.70m: 新鮮な硬質の柱状と片状と採取される。
	110.30		30										110.30~110.50m: 新鮮な硬質の柱状と片状と採取される。
	110.10		10										110.10~110.30m: 新鮮な硬質の柱状と片状と採取される。
115	113.44		44										113.44~113.90m: 中角位の割れ目が密集し、細碎状と採取される。
	113.24		24										113.24~113.44m: 中角位の割れ目が密集し、細碎状と採取される。
	113.04		04										113.04~113.24m: 中角位の割れ目が密集し、細碎状と採取される。
	112.84		84										112.84~113.04m: 中角位の割れ目が密集し、細碎状と採取される。
	112.64		64										112.64~112.84m: 中角位の割れ目が密集し、細碎状と採取される。
	112.44		44										112.44~112.64m: 中角位の割れ目が密集し、細碎状と採取される。
	112.24		24										112.24~112.44m: 中角位の割れ目が密集し、細碎状と採取される。
	112.04		04										112.04~112.24m: 中角位の割れ目が密集し、細碎状と採取される。
	111.84		84										111.84~112.04m: 中角位の割れ目が密集し、細碎状と採取される。
	111.64		64										111.64~111.84m: 中角位の割れ目が密集し、細碎状と採取される。
	111.44		44										111.44~111.64m: 中角位の割れ目が密集し、細碎状と採取される。
	111.24		24										111.24~111.44m: 中角位の割れ目が密集し、細碎状と採取される。
	111.04		04										111.04~111.24m: 中角位の割れ目が密集し、細碎状と採取される。
	110.84		84										110.84~111.04m: 中角位の割れ目が密集し、細碎状と採取される。
	110.64		64										110.64~110.84m: 中角位の割れ目が密集し、細碎状と採取される。
	110.44		44										110.44~110.64m: 中角位の割れ目が密集し、細碎状と採取される。
	110.24		24										110.24~110.44m: 中角位の割れ目が密集し、細碎状と採取される。
	110.04		04										110.04~110.24m: 中角位の割れ目が密集し、細碎状と採取される。

調査名		孔番・深度		観察日								
		B14-2 (115 ~ 120)		8/30								
標尺 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分				最大コア長 ROD	岩級区分	破碎度区分	<b>基盤岩コア観察カード</b> 記事・破碎性状・詳細スケッチ等
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化				
115	115.24				B						115.24~115.52m: 割れ目カサ無1, 主は碎状と採取される。	
	115.52				C							
116	116.33				V				0.9	CL	116.04m: <45°の割れ目と長さ2mの浸透管が存在。  116.33~117.37m: 割れ目硬質と割れ目比較的多く、柱状岩片状と採取される。	
					C							
117	117.22				B				0.9	CM	117.37~120.00m: 割れ目多し、岩片状と碎状と採取される。 117.58m: <45°の割れ目と長さ2~4mmの浸透管品出、砕石、石英片等。 117.48m: (塩酸で発泡) (P/A)	
	117.37				V							
	117.58				IV							
	117.95				C							
118	118.42				C				10	10	118.95~(20.00)m: 割れ目多し、岩片状と碎状と採取される。	
119					V				0.7	CL	119.32m: <20°の割れ目と長さ1mmの浸透管及び白色半粒が存在。	
120									0.7			

調査名		孔番・深度		観察日									
		B14-2 (120 ~ 125)		9/8									
標尺 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分					最大コア長	岩級区分	破砕度区分	記事・破砕性状・詳細スケッチ等
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化	変質				
120													<p>120m 以深に 4-6mm 程度の 27 形状の 1-3cm の薄片状の 27 が 5-10cm 以上は 見掛け上 連続的に 27 が 1-3cm の間隔で 低密度 割れ目の分布し、122-9 程度で 低密度 割れ目による 岩片化が、各割れ目の面は 変質で 暗緑色化が認められる。</p> <p>長石は 概ね 白濁化 (20%)</p> <p>120.50m 72° 割れ目に 淡灰緑色の粘土 (厚 0.5mm) が付着する</p> <p>120.30 ~ 122.0m 10-40° と 60-80° 割れ目が交差し、1-3cm の細い岩片化 (20%)</p> <p>121.15m 75° 割れ目に 淡灰緑色の粘土 (厚 0.5mm) が付着する</p> <p>121.50m 80° 割れ目に 淡灰緑色の粘土 (厚 0.5mm) が付着する。</p>
122			Ap	5YR 6/1 褐色	C	V	C	B	2	0	5	C <sub>L</sub>	<p>122.18 ~ 122.40m 55 ~ 60° 割れ目 27 の一部 脆化が 認められる (硬さ 0.5)。変質粘土は 付着する</p> <p>122.80m 55° 割れ目に 淡灰緑色の粘土 (厚 0.5mm) が付着し、割れ目下方側の 2cm 程度脆化 (硬さ 0.5)</p> <p>122.9-9m 60° 割れ目に 淡灰緑色の粘土 (厚 0.5mm) が付着</p> <p>123.10 ~ 123.41m は 見掛け上、5-10cm の長さの 薄片状の 27 が 1-3cm の間隔で 低密度 割れ目の分布し、27 の岩片化 (27 形状の 27)</p> <p>123.39m 30° 傾角の 0.6 ~ 1cm の 粘土混じり、石炭状を呈する。下盤側の 70° 割れ目の面には 暗緑色の粘土 (厚 0.5mm 以下) と 黄鉄鉱が 晶出</p> <p>また、123.39m には 上記の 70° 破砕脈と ほぼ 直交する 長径 2cm の 破砕脈の分布。下盤側の 割れ目の一部に 暗緑色の粘土 (厚 0.5mm 以下) が付着し、金魚肌を呈し、3mm 以下の 黄鉄鉱が 晶出している。</p>
123													<p>123.39m 30° 傾角の 0.6 ~ 1cm の 粘土混じり、石炭状を呈する。下盤側の 70° 割れ目の面には 暗緑色の粘土 (厚 0.5mm 以下) と 黄鉄鉱が 晶出</p> <p>また、123.39m には 上記の 70° 破砕脈と ほぼ 直交する 長径 2cm の 破砕脈の分布。下盤側の 割れ目の一部に 暗緑色の粘土 (厚 0.5mm 以下) が付着し、金魚肌を呈し、3mm 以下の 黄鉄鉱が 晶出している。</p>
124													<p>124.59 ~ 124.89m 互いに 直交する 約 45° 割れ目 27 に 割れ目中 1-3cm の高径を呈する。膜色に 白色化 (低密度 割れ目) の 岩片化 (27) と 推定される。</p>
125													<p>125.00m 10-20° 割れ目に 27 が 1-3cm の間隔で 低密度 割れ目の分布し、27 の岩片化 (27 形状の 27)</p>

調査名		孔番・深度		観察日									
		B14-2 (125 ~ 130)		9/8, 9/12, 9/13									
標尺 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分				最大コア長	岩級区分	破砕度区分	記事・破砕性状・詳細スケッチ等	
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化					変質
125				5YR 1/2 褐灰								<p>124.09 ~ 129.41 m 17 見掛け上は 5 ~ 10 cm の 短柱状コア全体にわたって、コア中には 1 ~ 3 cm の 脱色した白色化部 低密着剥離層を含む。低密着剥離 層は主に分粒・細片化部 (コア形状「C」)。</p> <p>125.10 m 35° 125.65 m 30° の剥離層は 剥離層周辺 2 ~ 3 cm 変質による暗緑色化。 後者の剥離層は暗緑色粘土 (厚さ 0.5 ~ 1 cm) が 付着する。粘土の黄鉄鉱の晶出 (C)。</p>	
126	126.00		Ap	126.00 2.5YR 6/2 灰赤	C	V	C	β	2		0	9	<p>126 ~ 126.65 m 色調は赤味あり。特に 126.00 ~ 126.63 m の間は赤味が強いの。</p> <p>126.25 ~ 126.67 m 45° 前後の剥離層は低密着剥離 層の存在による暗緑色化と赤褐色化部との 層状に分布する。粘土付着粘土脈は分布し 126.62 m 35° 剥離層は暗緑色粘土付着。微細黄鉄鉱の晶出。 126.72 m 付近の剥離層は未風化で、粘土の白濁 化を認められる。</p> <p>126.80 ~ 127.04 m 35° と 60 ~ 90° 剥離層は 約 1 cm 間隔に分布し、交互に 1 cm 前後 の厚さに分布する。剥離層の厚さは未風化の 粘土の付着による。</p> <p>127.73 ~ 127.90 m 石英が濃集し、全体に均質と する。</p> <p>127.63 m 45° 剥離層は真幅 0.5 mm の暗緑色粘土 が付着し、0.1 ~ 0.2 mm の微細黄鉄鉱の晶出 127.80 ~ 128.50 m 30 ~ 90° と 60 ~ 80° 剥離層は 交互に 1 ~ 3 cm の厚さの片を呈する。粘土付着は可 溶性を認められる。</p>
127	126.63 126.72			5YR 6/2 灰褐							0	5	
128	128.65			5YR 6/1 褐灰	C	V	C	β	2		0	7	<p>128.50 m 40° 剥離層は真幅 1 mm の暗緑色粘土 が付着。真幅 0.5 mm の白色・可溶性脈付着 128.60 ~ 128.90 m 概ね 1 ~ 3 cm 間隔に、低密 着剥離層が多く分布。剥離層の細片化部 (C)</p> <p>129.00 ~ 129.08 m 60 ~ 80° と 20 ~ 30° 剥離層は交互に、 1 cm 程度に細片化する。剥離層自身は硬 (C)</p> <p>129.08 ~ 129.40 m の長さ 3 ~ 6 cm の短柱状 コアには低密着剥離層が 1 ~ 2 cm 間隔に 網状に分布し、剥離層の付着部は 2 cm 程度に細片化する</p> <p>129.60 m 70° と 80° 剥離層が近接し、両剥離層の間 に剥離層の付着部が 0.5 ~ 1 cm 程度の細片化する。粘土 付着、粘土脈は分布する。</p>
129											0	7	
130											0	7	

調査名		孔番・深度		観察日								
		B14-2 (130 ~ 135)		9/3								
標尺 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	細区分					最大コア長 ROD	岩級区分	破砕度区分	<b>基盤岩コア観察カード</b> 記事・破砕性状・詳細スケッチ等
				色調	割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化				
130	130.16		Ap	5YR 6/1 褐灰	c	V	C	B	2			・130.16 35°割れ目。の一部が褐色風化部。劣化は 様々である。 ・130.16 m 以下では、長さ(2~3mm)の部分が 白濁化部 ・129.79 ~ 131.00 m 35~45°とほぼ直交する(斜交 角10~40°)割れ目が、長さ1~3cmの薄片を呈する。 割れ目は粘土質層に分布する。 ・130.50 ~ 130.54 m 45°割れ目による暗緑色化部 あり。劣化は粘土質層に厚さ1~3mm 石英脈を伴う。 ・131.00 ~ 132.00 m 120° (コア採取不可)
	130.30			5YR 6/2 灰褐						0	5	
131			Ap	5YR 6/2 灰褐	c	V	C	B	2	0	3	・132.00 ~ 133.00 m 上記と同様、割れ目と 透液層割れ目から1~3cm程度の間隔で密に 分布し、1~3cm程度の薄片化の部分も 多く含む。 ・変質と風化は劣化は粘土質層、133.46 m の10°割れ目には暗緑色粘土層に1cm程度の 付着(2mm)。 ・132.00 ~ 132.15 m と 133.10 ~ 133.30 m は 1~2cmの薄片に付着して採取し得る。薄片は硬質 (硬土)。 ・133.47 ~ 134.00 m、割れ目から長さ5mm程度の 扁平な結晶の付着部がある。扁平な結晶 は硬質の劣化は粘土質層に付着する。 ・134.00 ~ 135.00 m 120° (コア採取不可)
132												
133			Ap	5YR 6/2 灰褐	c	V	C	B	2	0	3	・133.47 ~ 134.00 m、割れ目から長さ5mm程度の 扁平な結晶の付着部がある。扁平な結晶 は硬質の劣化は粘土質層に付着する。 ・134.00 ~ 135.00 m 120° (コア採取不可)
134												
135												

調査名		孔番・深度		観察日																			
		B14-2 (135 ~ 140)		9/14, 9/17																			
標尺	深度	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分					最大コア長	岩級区分	破砕度区分	記事・破砕性状・詳細スケッチ等										
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化	変質					ROD									
135			Ap	5YR 1/2 灰褐	C	V	C	B	2			C <sub>2</sub>	135.00 ~ 135.50 m ・薄片は 10~30° 主軸 1~2cm 間隔の細粒の結晶が分布 ・薄片自身は硬質 ・割れ目に粘土層や粘土層の挟入はない ・石英の結晶は肉眼では確認できない 135.50 ~ 136.00 m / ンOP (採取できず)										
5	135.50																						
136			Ap	5YR 1/2 灰褐	C	V	C	B	2			D	・136.00 ~ 136.20 m 4 ~ 1.2cm 程度の薄片は岩盤地帯は 不明の面を、薄片には粘土層が分布し、割れ目間隔 1~2cm の20~70° 主軸の斜交、細粒の結晶を「cvc」と評述し 本区間を C <sub>2</sub> と判定した ・136.20 ~ 136.27 m cvc 組織の C <sub>2</sub> ・136.27 ~ 136.50 m 20~40° 主軸の cvc 組織の D <sub>2</sub> と判定した 136.50 ~ 136.75 m / ンOP (採取できず) 部分的に粘土層の挟入										
5	136.30																						
	136.50																						
	136.75																						
137			Ap	5YR 1/2 灰褐	C	V	C	B	2			C <sub>2</sub>	・136.75 ~ 137.08 m 4 ~ 2cm の薄片は片状岩盤状流 10° 不明の面を、136.00 ~ 136.20 m と同じ理由、 (2A) C <sub>2</sub> と判定した ・137.08 ~ 138.42 m ・全体は特色をおびており (緑泥石化の変質作用?) 割れ目間隔が概ね 1~3cm の 10~30° 割れ目と、これと 斜交する 40~50° 割れ目があり、後者の黄鉄鉱の結晶あり。 ・上記の両割れ目系交差部の一部で、137.67 ~ 137.73 m (45° 割れ目) の 1cm 前後の破砕帯を呈し (暗緑色粘土が 付着する場合あり)。 ・石英の結晶は肉眼では確認できない										
5	137.08																						
138			Ap	5YR 1/2 灰褐	C	V	C	B	2			C <sub>2</sub>	138.21 ~ 138.42 m 変質作用による岩盤地帯、割れ目には暗緑色粘 土が付着し、全体に特色を帯びた。 138.36 ~ 138.42 m 上部には 20~70° 岩盤地帯化 (変質作用に 関係) 組織化あり。若くは体積変質 (硬さ)。 138.62 ~ 138.66 m 下部には 10~30° 岩盤地帯化 (軟質) (硬さ) 特色を帯びた組織化あり。 ③ 138.42 ~ 140.04 m 若くは体積変質 (硬さ) であり、110° 斜 交の割れ目も存在し、石英は 30° 程度の割れ目が発達 33。 139.21 ~ 139.50 m 概ね変質作用、割れ目には暗緑色粘土が 若くは体積変質 (硬さ)。										
5	138.21																						
	138.42																						
	139.21																						
139			Ap	5YR 1/2 灰褐	C	V	C	B	2			C <sub>2</sub>	139.21 ~ 139.50 m 概ね変質作用、割れ目には暗緑色粘土が 若くは体積変質 (硬さ)。										
5	139.21																						
140																							



調査名		孔番・深度		観察日								
		B14-2 (140.00 ~ 145.00)		9/17, 9/18								
標尺 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	細区分				FOD	最大コア長	岩級区分	破砕度区分	<b>基盤岩コア観察カード</b> 記事・破砕性状・詳細スケッチ等
				色調	割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ					
	140.04											140.04 ~ 140.30 m. 割れ目発達部。一部破砕部(硬2C)あり。上下位に比べ軟質あり。
	141.33		5/R5/2 灰岩									140.30 ~ 141.71 m. 上部に比べ軟質あり。割れ目頻発(20° ~ 30°)。割れ目沿いの細片化がみられる。割れ目は20° ~ 50°をとり。
141	140.89		140.89 5/R5/1 灰岩	C	V	C	B	2	0	5		
	141.31		141.31 5/R5/1 灰岩									
	141.91											141.71 ~ 142.00 m. 傾角(10° ~ 20°)の割れ目が発達し、その割れ目沿いの細片化、細粒化を軟質とす。下部の一部は破砕(硬2C)あり。
142	142.00			C	V	D			0	3	CL	142.00 ~ 142.30 m. 上部に比べ軟質あり。割れ目沿いの岩盤の劣化は軽微あり。割れ目沿いの細片化あり。
	142.30		AP									142.30 ~ 142.48 m. 上部に比べ岩盤の劣化は軽微とす。割れ目沿いの細片化あり。
	140.48											142.48 ~ 143.53 m. 岩盤劣化あり。割れ目沿いの細片化、細粒化がみられる。
143	143.53								0	6		特に143.53 ~ 143.82 m, 143.82 ~ 143.83 m. 割れ目が発達し、その割れ目沿いの細片化、粗粒化あり。粘土状部分がみられる。
	143.53											143.83 ~ 145.46 m. 上部に比べ岩盤劣化は軽微あり。割れ目頻発は小とす。割れ目沿いの細片化、細粒化は軽微とす。割れ目は傾角20° ~ 30°のものが優勢あり。
144	144.46		144.46						0	8		
145	144.46		N5/4 灰	C	IV	C	B	2	11	11		

調査名		孔番・深度		観察日							
		B14-2 (145.00 ~ 150.00)		9/18							
標尺 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	細区分				最大コア長	岩級区分	破砕度区分	<b>基盤岩コア観察カード</b> 記事・破砕性状・詳細スケッチ等
				色調	割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ				
	145.46		N4/4 灰		IV	C					145.46 ~ 146.17 m. 上位にSC心割れ目粗度が大なり。割れ目沿いの細片化がみられる。微細に割れ目もみられる。選別はなし。
146	146.17 146.29		146.29		V			10 10	C2		146.17 ~ 146.71 m. 上位にSC心。割れ目沿いの岩盤の劣化が顕著で、一部の割れ目沿いに細片化がみられる。割れ目粗度は小なり。
	146.71		S4R4/1 灰		IV						146.71 ~ 147.13 m. 上位にSC心。割れ目粗度が大なり。微細に割れ目もみられる。選別はなし。
147	147.13		147.13		V			0 9			147.13 m. 割れ目に暗緑色の熱水変質帯がみられる。割れ目沿いに暗緑色の帯がみられる。下盤割れ目(147.20 m付近)は脱色し、軟質(硬さD)と見られる。
	147.13		S4R3/1 灰								147.13 ~ 147.20 m. 赤色の帯がみられる。傾斜60~70度の割れ目が優勢であり、微細に割れ目もみられる。選別はなし。割れ目沿いの細片化、細粒化がみられる。
148								0 3			
	148.10		148.70								
149	149.30		S4R2/1 灰					0 3			149.00 ~ 149.62 m. 割れ目沿いの細片化、細粒化がみられる。一部硬質部(硬さC)がみられる。上下位にSC心がみられる。149.62 ~ 150.00 m. 軽微な変質作用を受け、緑色の帯がみられる。上位にSC心がみられる。微細に割れ目もみられる。
	149.62 149.63				C						149.62 ~ 149.63 m. 変質作用による劣化部。幅40mm、上下位に傾斜40度と見られる。上下位に硬質部が明確に境がみられる。暗緑色の熱水変質帯が不規則にみられる。暗緑色の帯がみられる。上下位にSC心が見られる(硬さD)と見られる。
150								0 9			

余白

H24-D1-3

# 第四系コア観察カード

調査名		孔番		観察日			
		D/- 3		5/15			
標尺 (m)	深度 (m)	イベント・地層境界	スケッチ	マーカ-	地質名	色調	堆積構造・特徴等
				火山灰物 炭質土 貝化石 木片			
0	0.18			○ r /// ○ ○	礫	2.5YR 5/1 黒褐	0.0~0.18m: 礫 礫は黒雲母花崗岩の角子 0.18~3.57m: 礫混り粗砂 礫は10~20mm Gr, Ap 程度まで含む。粗砂はルースである。 礫は10~20mm 程度まで含む。
1	0.5				礫混り粗砂	2.5YR 5/3 黒褐	
2	0.5						
3	0.5						
4	3.57				中砂	2.5YR 5/2 灰褐	3.57~4.00m 中砂 礫混り粗砂、ルースである。 最下部3.96m以下は礫と砂の混入。

スケッチ: 礫はクサリ ● 半クサリ ◐ 硬質 ○ 礫種は黒雲母花崗岩Gr, 花崗斑岩Gp, アプライトAp 等  
 境界 明瞭 — 不明瞭 - - - 亀裂は赤線, 角度, 条線等

# 第四系コア観察カード

調査名		孔番		観察日		
		D-3		5/16, 5/17		
標尺 (m)	深度 (m)	イベント・地層境界	マーカ-	地質名	色調	堆積構造・特徴等
			火山灰質土 化石貝片			
4	4.00					
0.5	4.49		○	礫・粗砂 (改良土)	25YR 4/4 灰褐色	4.00~4.49m: 礫・粗砂の中砂 4~5mm 礫, 長石粒, φ5~20mm Gp, Ap, 礫石片を含む 若干の細砂を混入 11-2' まで。
5	4.99		○	礫 粗砂 (改良土)	10YR 5/3 灰褐色	4.49~6.00m: 礫混入粗砂 4~5mm 石英, 長石粒, φ5~20mm Gp, Gr, Ap 互角礫を含む 11-2' 粗砂, 礫石片を混入 4.26~4.50' 間は φ5~10mm 互角礫を多く含む砂状。 5.00~5.10' の礫石片の落下 5.12' 以下, 5.30' 付近に黒色の礫石片を含む。
0.5	5.49		○			5.70' φ3~4mm 黒色礫石片数個の点見。
6	6.39		○	中砂 (改良土)	10YR 5/3 灰褐色	6.00~6.39m: 中砂 4~5mm 粗砂を混入し均質 6.26~6.27m φ2~3mm の黒色礫石片を含む 11-2'
0.5	6.89		○	中礫 (改良土)	10YR 4/4 灰褐色	6.39~7.40: 中礫 4~5mm 礫粒, φ5~120mm の礫石片 Gp 互角礫へ互角礫 粗砂の基底を形成し、礫石片を含む。 礫含有率は 30~40% 7.00' に φ30mm (27号) の Gp 中礫を含む。 7.20~7.25' の礫石片の落下は可視。
0.5	7.40		○	中砂	10YR 5/3 灰褐色	7.40~8.30m: 中砂 4~5mm 粗砂中礫石片を含む均質 全体が 11-2' まで。
0.5	7.90		○			

スケッチ: 礫はクサリ ● 半クサリ ◐ 硬質 ○ 礫種は黒雲母花崗岩 Gr, 花崗斑岩 Gp, アプライト Ap 等  
境界 明瞭 — 不明瞭 - - - 亀裂は赤線, 角度, 条線等

# 第四系コア観察カード

調査名		孔番		観察日			
		D/3		5/17, 5/20			
標尺 (m)	深度 (m)	イベント・地層境界	スケッチ	マーカ-	地質名	色調	堆積構造・特徴等
				火山灰物 土貝化石 木片			
8 9 10 11 12	0.5 1.0 1.5 2.0 2.5 3.0 3.5 4.0 4.5 5.0 5.5 6.0	----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- -----		○	中砂 (改土)	10R 3/3 2.38~2.60m : 中砂 2.60~ (9.00m) : 中砂 9.00~9.66m : 中砂 (少量の2.5μと2.0μの混入) 9.66~9.84m : 2.5μの混入 9.84m : 礫	5/17 ↓ 是層コア観察の参考

スケッチ: 礫はクサリ ● 半クサリ ◐ 硬質 ○ 礫種は黒雲母花崗岩Gr, 花崗斑岩Gp, アプライトAp 等  
 境界 明瞭 — 不明瞭 --- 亀裂は赤線, 角度, 条線等

調査名		孔番・深度						D1-3 (9.54 ~ 10.00)		観察日		5/20	
標尺 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分				RQD	最大コア長	岩級区分	破碎度区分	<b>基盤岩コア観察カード</b> 記事・破碎性状・詳細スケッチ等
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化					
6													
7													
8													
9													
05													
05	9.54												
0			GP	7.5R 7/2 明褐色	1	VI	E	5	2	0	1	D	相対的観察の参考 9.54 ↑ 9.54 ~ 10.00 硬、中1 ~ 7mm 角石塊の付着した花崗地岩



調査名		孔番・深度		D1-3 (10.00 ~ 15.00)		観察日		5/20, 5/22				
標尺 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分				最大コア長	岩級区分	破砕度区分	記事・破砕性状・詳細スケッチ等
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化				
0.5	10.53		Gp	2.5YR 1/2 明物灰	d	VI	E			D	D	9.04 ~ 10.77 m 若くは軽微に割れ目には消滅部。若くは塊状の塊石(20mm)。10cm前後の長さの扁平塊石が多量に含む。 粘土状部は粘土質(25Y 1/2)。 消滅部には40~60°割れ目が残存する。20mm。 10.07 ~ 10.50 m
	10.97											
11	11.55		Gp		c	V	E	δ	2	D	D	10.77 ~ 12.00 m 若くは軽微に。破砕部は主体で60°割れ目は上部の塊石(20mm)。粘土質も明確である。 割れ目は40~60°とこれに近接した角の40~50°の2本の割れ目があり、割れ目と割れ目の間に石灰化部が認められ、割れ目の一部には粘土質の塊石も認められる。 粘土質は強固に感じられる。 11.90m, 45°の消滅部には割れ目には石灰化部は認められる(緑泥石化と推定)。
	12.00											
12	12.13		Gp		c	V				D	D	12.00 ~ 12.13 m 23Y 4 12.13 ~ 13.03 m 若くは塊状の土質は塊石70%。コア全体が若くは軽微に。30~40°の割れ目と低角度の割れ目主体で、一部は60~70°の割れ目と折れ目。若くは塊状の砂状化部。一部は20mmの塊石が認められる。若くは粘土状部は20~60°、12.13 ~ 12.17 mは角1~3°の石灰化部が認められる。12.17 m以降は割れ目の一部は厚2mm前後の粘土質の塊石が認められる。 12.57 ~ 12.61 mは上部45°、下部35°の石灰化(緑泥石化)部。下部は角1~2°の塊石の石灰化が認められる。
	12.29											
13	13.27		Gp	10YR 3/3 黄橙	c	V	C		2	D	D	12.61 ~ 12.66 mは上部45°、下部35°の石灰化(緑泥石化)部。下部は角1~2°の塊石の石灰化が認められる。 13.03 ~ 13.32 m 石灰化と石灰化で割れ目は20mm前後の塊石が認められる。 13.32 ~ 13.47 m 石灰化砂状化(20mm)。 13.47 ~ 13.94 m 50°割れ目と折れ目は塊石が認められる。 若くは石灰化部で石灰化部は石灰化粘土質に認められる。一部は20mmの塊石が認められる。 13.94 ~ 14.06 m: 破砕帯 (H-3d 破砕帯)
	13.39											
14	14.06		Gp	5YR 1/4 黄褐色	c	IV	D		2	D	D	13.94 ~ 14.06 m: 破砕帯 (H-3d 破砕帯) 13.94 ~ 13.98 m: HJ 上部60°、下部35°。両者が連続的に30~50°に連続。φ5~10mmの粘土質の石灰化部主体で、若くは塊状の石灰化(砂状)部が認められる。厚さ20~30mm。 13.98 ~ 14.00 m: Hc-1 上部35°、下部60°。両者が連続的に30~50°に連続。φ1cm前後の石灰化を含む塊石が認められる。厚さ10mm。 14.00 ~ 14.06 m: HJ (主として断面: 14.06m) 上部60°、下部60°。上部は連続的に30~50°、下部は石灰化に連続。φ1cm前後の石灰化を含む塊石が認められる。厚さ20mm。明物(2.5Y 1/2)の塊石。厚さ20mm。
	14.17											
15	14.41		Gp	2.5YR 3/3 黄橙	c	IV	D		2	D	D	14.06 ~ 14.17 m: 破砕帯 (H-3d 破砕帯) 14.17 ~ 14.22 m: HJ 上部60°、下部35°。両者が連続的に30~50°に連続。φ5~10mmの粘土質の石灰化部主体で、若くは塊状の石灰化(砂状)部が認められる。厚さ20~30mm。 14.22 ~ 14.26 m: Hc-1 上部35°、下部60°。両者が連続的に30~50°に連続。φ1cm前後の石灰化を含む塊石が認められる。厚さ10mm。 14.26 ~ 14.32 m: HJ (主として断面: 14.32m) 上部60°、下部60°。上部は連続的に30~50°、下部は石灰化に連続。φ1cm前後の石灰化を含む塊石が認められる。厚さ20mm。明物(2.5Y 1/2)の塊石。厚さ20mm。
	14.52											

調査名		孔番・深度		D1-3 (15.00 ~ 20.00)		観察日		3/22				
標尺 (m), f	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分				最大コア長	岩級区分	破砕度区分	記事・破砕性状・詳細スケッチ等
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化				
05			gp	2.5YR 3/3 明褐	c	v	b	δ	2			<p>14.06 ~ 14.41 m            上部は塊状の硬質の砂岩、下部は軟弱な砂岩。砂岩は厚さ約10cm、砂粒径は0.1~0.2mm、粘土質。粘土は白色〜明褐色(10YR 7/6)の粘土。厚さ約10mm。</p> <p>14.41 ~ 14.52 m: 破砕帯 (H-4 破砕帯)</p> <p>14.52 ~ 14.49 m: H<sub>1</sub>            上部40%、下部60%で、両端は連続的の砂岩。粘土は粘土質の砂岩(2.5YR 7/2) ~ 粘土質(2.5YR 7/4)の厚さ20~30mm。</p> <p>14.49 ~ 14.48 m: H<sub>2</sub>-2 (主断面14.47 m)            上部60%、下部60%で、上部は塊状の砂岩、下部は粘土質の砂岩。砂粒径は0.1~0.2mm、粘土質。粘土は粘土質の砂岩(5Y 7/2)の粘土。厚さ10~15mm。</p> <p>14.48 ~ 14.52 m: H<sub>1</sub>            上部60%、下部60%で、両端は連続的の砂岩。粘土は粘土質の砂岩(5Y 7/2)の粘土。粘土は粘土質の砂岩(5Y 7/2)の粘土。厚さ20mm。</p>
16	16.40			2.5YR 6/2 灰褐色						10	10	
05	17.00			2.5YR 6/2 明褐色						15	15	
17	17.90			2.5YR 6/2 明褐色	c	v	c	γ				<p>14.52 ~ 22.47 m            比較的割れ目が多い砂岩。砂岩は厚さ約10cm、砂粒径は0.1~0.2mm、粘土質。粘土は粘土質の砂岩(5Y 7/2)の粘土。厚さ約10mm。</p> <p>16.40 ~ 20.00 m: 砂岩は厚さ約10cm、砂粒径は0.1~0.2mm、粘土質。粘土は粘土質の砂岩(5Y 7/2)の粘土。厚さ約10mm。</p> <p>20.00 ~ 22.47 m: 砂岩は厚さ約10cm、砂粒径は0.1~0.2mm、粘土質。粘土は粘土質の砂岩(5Y 7/2)の粘土。厚さ約10mm。</p> <p>16.40 ~ 17.60 m: 砂岩は厚さ約10cm、砂粒径は0.1~0.2mm、粘土質。粘土は粘土質の砂岩(5Y 7/2)の粘土。厚さ約10mm。</p> <p>17.60 ~ 18.05 m: 砂岩は厚さ約10cm、砂粒径は0.1~0.2mm、粘土質。粘土は粘土質の砂岩(5Y 7/2)の粘土。厚さ約10mm。</p> <p>18.05 ~ 19.00 m: 砂岩は厚さ約10cm、砂粒径は0.1~0.2mm、粘土質。粘土は粘土質の砂岩(5Y 7/2)の粘土。厚さ約10mm。</p>
05	19.00									21	11	
18	20.00									20	10	
05												<p>19.10 ~ 19.22 m: 割れ目が多い砂岩。砂岩は厚さ約10cm、砂粒径は0.1~0.2mm、粘土質。粘土は粘土質の砂岩(5Y 7/2)の粘土。厚さ約10mm。</p> <p>19.22 ~ 20.00 m: 割れ目が多い砂岩。砂岩は厚さ約10cm、砂粒径は0.1~0.2mm、粘土質。粘土は粘土質の砂岩(5Y 7/2)の粘土。厚さ約10mm。</p>

調査名		孔番・深度		D/3 (20.00 ~ 25.00)		観察日		5/22				
標尺 (m)20	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分				最大コア長	岩級区分	破碎度区分	<b>基盤岩コア観察カード</b> 記事・破碎性状・詳細スケッチ等
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化				
	20.00											
05	20.05											
21	21.00							10	10			21.00' ~ 22.30' 40° 60' 割れ目、低角度割れ目 0.13m 平行に分布する。粘板の存在は認められ、風化・腐食・砂状 粘板割れ目あり。
05	21.05		Gp	75YR 7/2 明褐色	c	IV	D	δ	2		C <sub>L</sub>	21.18' ~ 60' 21.61' ~ 60' に幅 1mm の石炭酸 0.5% 溶液 着色に分布する。20.35' 後者の石炭酸は着色が 5.5m 割れ 目 2.0m 以上変化なし (着色は 2.0m 以上 0.5m)
	21.75											22.20' 60° 割れ目 0.1m 以上 0.5m 以上 (粘板酸化) 0.1m の厚さあり。
22	22.00							0	7		C <sub>M</sub>	
05	22.47											22.47 ~ 23.77 m 割れ目 0.5m 以上あり。0.7m 以上 III 主体で、22.47 ~ 22.77 m 23.60 ~ 23.77 m は硬く、23.60 以外の硬く、硬く 割れ目 0.5m 以上あり。
	23.77											50 ~ 60° 割れ目 0.1m 以上あり、硬く「C」色 0.1m 以上、23.77 m 以上 粘板酸化あり、硬く「B」色 0.1m 以上あり、粘板酸化あり。
23	23.00							38	13		C <sub>H</sub>	割れ目 粘板 0.17. 1.2m あり。
05	23.60											22.77' 55° 割れ目 0.5m 以上あり、割れ目 0.1m 以上あり。
	23.77											22.78' ~ 23.40' φ 2 ~ 3 mm の黒雲母 0.5m 以上あり。
11410123	24.00											23.77 ~ 24.94 m 50° 前後の割れ目 0.5m 前後の割れ目 0.5m 以上あり。 粘板 0.1m 以上あり、粘板 0.1m 以上あり。
24	24.00							44	23			粘板 0.1m 以上あり、粘板 0.1m 以上あり。
05	24.94										C <sub>L</sub>	24.94 ~ 25.29 m 上層 0.1m 以上あり、割れ目 0.5m 以上あり、割れ目 0.1m 以上あり。
25	25.00							26	16			

調査名		孔番・深度		観察日								
		D/-3 (25.00 ~ 30.00)		5/25								
標尺 (m) <sup>25</sup>	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分				最大コア長 ROD	岩級区分	破砕度区分	<b>基盤岩コア観察カード</b> 記事・破砕性状・詳細スケッチ等
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化				
	25.29				V							・25.29 ~ 26.97m 50~70°割れ目と互生し、一部20cmに斜交へ交差する50~60°割れ目も分布する。 上位にはR化の跡が認められ、一部の割れ目には薄く砂状化している。 粘土部は厚く、粘土層の厚さ1~5cmの軟弱な粘土質の粘土層が割れ目に沿って分布している。
0.5	26.63				C							
26			Gp	22YR 7/2 明褐色					32 24			・26.94m、20°割れ目と幅20mmの22cmの軟弱な黒褐色化層。 ・26.94m、50°割れ目の一部は厚さ1~5cmの軟弱な圧白色粘土層が分布し、割れ目には薄く砂状化している。
0.5	26.72				C							・26.94m、45°の低密度割れ目は幅4~5cmの軟弱な圧白色粘土層である。 ・26.92m 以降は上位に比べて硬くなる(硬さ)
27									10 10			・26.97 ~ 27.26m 上位より下部50°の割れ目に傾斜し、R化に至るまで軟弱化する。粘土層の厚さは分布する。
0.5	27.26				V							・27.26 ~ 28.43m 粘土層の27.26 ~ 27.64mは硬く砂状化する。27.64m 以降は硬さで単色化する。割れ目は斜交し、40~60°の主体で同様の低密度割れ目も分布する。 割れ目の低密度割れ目には厚く砂状化層が認められ、粘土層の厚さは分布する。
28				10YR 7/3 赤褐色					15 15			・27.70m、60°割れ目の幅5mmは粘土層の厚さ、これは粘土層の厚さの大部分である。 ・28.43m、60°割れ目の幅1~2cmの軟弱な粘土層は20~30cmの軟弱な砂状化粘土層の連続層に属する。
0.5	28.43											・28.43 ~ 29.31m R化の40°割れ目の一部は滑り(砂状化)している。割れ目上位は同様に40~60°の主体で傾斜し、一部は20cmと斜交へ交差する40~50°割れ目も分布する。粘土層の低密度割れ目には厚く砂状化層が認められる。粘土層の厚さは分布する。
29									0 8			・28.57m、45°、28.92m、55°の割れ目幅2~3cmの軟弱な圧白色粘土層は認められる。
0.5	29.31				C							・29.31 ~ 29.95m 上位に比べては同程度の硬さの割れ目は分布する。R化の割れ目は滑り(砂状化)している。
30									22 12			
	29.95				V							

調査名		孔番・深度		D/- 3 (30.00 ~ 35.00)		観察日		8/5				
標尺	深度	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分				最大コア長	岩級区分	破碎度区分	記事・破碎性状・詳細スケッチ等
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化				
(m)30	(m)											<p>29.95 ~ 33.30m</p> <p>上位側 32.63m 以下の砂岩と、下位側 32.68m 以下の泥岩の互層。両層とも年代は同一。軟化～著しく軟化 (2nd)。</p> <p>割れ目は 32.63m 以下の砂岩 (2nd) のみ。32.63m 以下の泥岩は一部消滅し、一部残存 (2nd)。</p> <p>割れ目は 20~40° と 30° に斜交し、長さ約 50~70cm 割れ目と同程度の低密度割れ目も互層である。32.63m 以下の泥岩は一部消滅し、著しく軟化して 20~30cm の長さ。32.63m 以下の砂岩も同一程度に軟化して 20~30cm の長さ。粘土部は粘厚部の分布が約 10% あり、</p> <p>砂岩部は部分的に割れ目面にマニッシュ泥層を伴い、黒色化している。</p> <p>30.24m、60° 割れ目に泥岩の同層粘土。幅 2cm 程度の 10~20cm、</p> <p>30.47m、80~90° 斜交の泥岩に 30.85m、55° 割れ目と同程度の互層は同一程度に軟化して 20cm 程度の長さ。</p> <p>30.85m、55° 割れ目互層は 10~20cm の長さの泥岩の長さ。</p> <p>32.30m、60° 泥岩に泥岩の同層粘土。幅 2cm 程度の 10~20cm (互層量 10mm 程度)。</p> <p>割れ目幅 1cm の泥岩互層の長さの泥岩は 10~20cm。</p> <p>32.63m、55° 泥岩に泥岩の同層粘土。長さ約 45cm 割れ目互層の長さ (互層量 10mm 程度)。割れ目幅 1~2mm の泥岩の長さの泥岩は 10~20cm。</p> <p>32.63m 以下の泥岩は 33.30m まで割れ目消滅する。以下は泥岩の消滅部分。割れ目一部が残存する部分である。</p> <p>33.00 ~ 33.30m 割れ目、低密度割れ目も互層に泥岩の長さ 10~20cm。</p> <p>33.40 ~ 33.23m、40~50° の割れ目一部、低密度割れ目も互層の長さ 10~20cm の長さ。互層の長さ 10~20cm の長さ。互層の長さ 10~20cm の長さ。</p> <p>33.30 ~ 34.23m</p> <p>粘厚部と割れ目互層の消滅部分。</p> <p>互層は 40~50° の長さ 10~20cm の長さの泥岩 (10~20cm) の長さ。</p> <p>33.91m、50° 長さ 20~30cm の長さ 10~20cm の長さ。互層の長さ 10~20cm の長さ。</p> <p>互層の長さ 10~20cm の長さ。互層の長さ 10~20cm の長さ。</p> <p>34.17 ~ 34.23m 互層の長さ 10~20cm の長さ。互層の長さ 10~20cm の長さ。</p> <p>34.23 ~ 34.52m : 破砕帯 (D-1 破砕帯)</p> <p>34.23 ~ 34.39m : HJ</p> <p>上部 50°、下部 55° の両層の互層の長さ 10~20cm の長さ。</p> <p>長さ 10~20cm の長さ。互層の長さ 10~20cm の長さ。互層の長さ 10~20cm の長さ。</p> <p>互層の長さ 10~20cm の長さ。互層の長さ 10~20cm の長さ。</p> <p>34.30m 以下 30° 長さ 10~20cm の長さ。互層の長さ 10~20cm の長さ。</p> <p>互層はマニッシュ泥層に互層の長さ 10~20cm の長さ。互層の長さ 10~20cm の長さ。</p> <p>35</p>
05	30.30		Gp	10YR 7/3 100% 黄褐色	c	v	D	δ	2	0	5	
31				2.5YR 7/2 明褐色						0	5	
05										0	5	
32										0	5	
05	32.63											
33										0	7	D
05	33.30											
05				10YR 7/4 100% 黄褐色	d	v						
34										0	2	
05	34.23											
05	34.39				d	v	E					
05	34.40											
05	34.52			2.5YR 7/2 明褐色	c	v	D		3			
35	35.00									0	1	

調査名		孔番・深度		D1-3 (35.00 ~ 40.00)		観察日		4/25				
標尺	深度	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分				最大コア長	岩級区分	破碎度区分	記事・破碎性状・詳細スケッチ等
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化				
(m)35	(m)											
	35.00											
	0.5											
	35.71											
	35.81											
	36		Gp	2.5YR 1/2 明褐色	c	v	D	Y	3			<p>34.39 ~ 34.40m: Hc-1 (主断面: 34.39m)</p> <p>35で連続的にsp-2に連続し軟弱な白色~灰黄色粘土状で1mm程度の石英粒を含む。厚さは5~7mmである。</p> <p>34.40 ~ 34.52m: HJ</p> <p>上部35、下部35'c' 両者で連続的にsp-2に連続し35~40mmの径の硬い粘土質の薄片が主体で薄片が連続して存在する。薄片間の一部に幅0.5~1mm程度の軟弱な粘土が分布し、粘土質の薄片状に呈す。薄片は20~30%程度の厚さで存在する。全体の色調は灰黄色粘土(10YR 4/2)で、厚さ130mm(コア長)。</p>
	0.5											
	36.53											
	36.82											
	37											
	0.5											
	37.74											
	38											
	0.5											
	38.74											
	39											
	0.5											
	39.22											
	39.53											
	40											

調査名		孔番・深度		観察日								
		D1-3 (40.00 ~ 45.00)		7/25								
幅尺 (m) 40	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分				最大コア長	岩級区分	破砕度区分	記事・破砕性状・詳細スケッチ等
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化				
	05		Gp	25YR 7/2 明褐色	c	IV	c	Y	2			<p>40.07 ~ 44.01 m 40~50割目幅がほぼ平均的に3~10 cmの間隔で規則的に分布する。 割目の面は薄く褐黄色の帯で、砂状化は伴わない。 一部幅1~2mm以下の軟弱粘土帯は認められる。</p> <p>40.61 m, 45.0割目、下盤側の一部は幅5mm程度の淡緑灰色化(緑泥石化)し、幅2mmの石英脈を伴う。</p> <p>40.92 m - 55.0 ~ 40.95 m, 60.0は一部砂状化し、幅0.5~1mmの軟弱粘土帯は認められる。</p> <p>41.40 m, 45.0, 41.57 m, 50.0は割目幅がほぼ一定の55.0割目幅に20.0 mの間、変位は不明。</p> <p>41.50 ~ 44.30 m 一部の割目幅が、割目幅が10.0~20.0 cm程度、薄く黒褐色の帯で、砂状化は伴わない。</p> <p>42.04 m, 50.0幅2mm石英脈の両側に密着して連続。</p> <p>42.00 m - 50.0, 42.12 m, 40.0割目幅に幅2mm程度の円筒粘土帯、幅2mm以下の黄褐色の軟弱粘土帯は認められる。</p> <p>42.19 m, 20.0幅1~2mm石英脈の両側に密着して分布する。30.0割目で知られて下盤側と対向(変位は不明)。</p> <p>43.08 m, 45.0幅0.5~1.0mm程度の淡緑灰色化(緑泥石化)粘土帯の帯化は伴わない。</p> <p>43.14 m, 50.0割目に幅1~2mmの軟弱粘土帯は認められる。</p> <p>43.60 m, 60.0と43.61 m - 60.0の割目に円筒幅2~5mmの砂状化~砂状化する。43.60 m, 60.0割目の一部に、黄褐色の幅1~2mmの粘土帯が認められる。</p> <p>44.01 ~ 44.29 m 破砕に準じた、割目の一部は薄く砂状化帯化が認められる。 44.12 m, 50割目に幅2mmの風化・黄褐色粘土帯は認められる。</p> <p>44.29 ~ 47.37 m 40~60割目幅が互いに平行に分布する。 一部は、これらに斜交する60.0割目を伴う。 上記割目は同様の角度で、低密着割目も認められる。 割目の一部は、淡く砂状化し、粘土帯は認められる。一部は分布が少なく、特に46.53 ~ 46.60 mは黄褐色粘土帯で軟弱である。</p>
	41								b	7		
	05											
	42								b	3		
	11											
	05											
	43								o	8		
	05											
	44	44.01			c	V	d	δ	2	12	12	
		44.29										
	05											
	45									11	11	

7/25

調査名		孔番・深度		D1-3 (45.00 ~ 50.00)		観察日		5/27					
標尺 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分				最大コア長 ROD	岩級区分	破砕度区分	<b>基盤岩コア観察カード</b> 記事・破砕性状・詳細スケッチ等	
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化					変質
45												44.97m. 50割目は一割理化学的浸食(緑泥石化)に伴う。下は微細なφ0.5mm以下の雲母が晶出している。 44.91m. 50割目は幅2~3mmの軟弱な明黄褐色(10YR 6/6)を伴う。 45.32m. 55割目には幅約5mm前後の浸食(緑泥石化)とφ0.5mm以下の微細な雲母が晶出している。 45.57m. 55割目より割目で、交互に60°と80°割目がある(変位量約10mm) 45.80m. 45.87m. 20°低密度割目には軽微に20°と25°の浸食がある。	
46			Gp	2.5YR 7/2 明褐色	c	IV	c	γ	2	10	10	Cc	46.23m. 57割目に幅5mmの固結帯がある。 46.28m. 50割目に幅10mmの浸食(緑泥石化)とφ0.5mm以下の雲母が晶出している。 46.53~46.60m 上部45m 下部40mで、上部は連続的に20°に連続する下層部は20°の割目がある。 φ5~10mmの粘土質の層に厚さ10mm前後5mm前後の粘土質の層が層状に多く含まれる。粘土質の層はHb層と見られる。一部に20°の浸食と30°の浸食がある。 全体の色調は、明褐色(2.5YR 7/2)~黒褐色(2.5YR 3/1)で厚さは20mm(コア長) 46.87~46.92m. 40~60°割目には20°の浸食がある。黒褐色化する。
47													47.20m. 50割目には幅0.5mm以下の浸食と軟弱な粘土質の層が層状に連続している。 47.37~47.66m 50割目4本の平均的な厚さ。20°の斜交に連続する30~80°の浸食と連続する割目と低密度割目がある。前者は連続的に20°に連続する。後者はせん断性割目がある。せん断面に可動性がある。 47.52m. 50°前後5~6mmの石灰質の層に浸食がある。前後中央部は割目(20°)。
48													47.66~48.35m 50前後の割目4本で、上部は連続的に30~80°割目と20°に連続する。 48.11m. 浸食は20°と25°に連続している。 48.11m. 47.75°と40°割目の浸食。両割目には固結帯と厚さ10mm前後の硬質層が層状に連続している。粘土質の層は層状に連続している。 48.35~49.35m 30~60°割目の連続。20°は60~80°割目の連続。一部は割目浸食と浸食の連続がある。粘土質の層は、粘土質の層に20°割目と20°の層は少ない。 48.49m. 50°、48.56m. 55°の割目には幅2~5mmの浸食とφ5mm前後の層がある。後者は20°の浸食と浸食の層がある。 48.71m. 55°の割目には軟弱な明黄褐色(10YR 6/6)の粘土質の層がある。 49.21m. 75°のせん断性割目。浸食は40°割目と20°の層(変位量10mm)がある。 49.35~49.93m 浸食Bと浸食C。一部は浸食割目には層がある。
49													49.35 49.35
50													49.93 49.93



調査名		孔番・深度		観察日									
		D1-3 (50.00 ~ 55.00)		5/27 5/28									
標尺 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分					最大コア長 ROD	岩級区分	破碎度区分	記事・破碎性状・詳細スケッチ等
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化	変質				
			Gp	25YR 7/2 明褐色	c	v	c	Y	2		CL		<p>割れ目形状と地質の表在物は殆んど合致しない。 50~60°の2H13斜交する60~80°割れ目の主軸2本あり。 49.71m 50°割れ目1~2mmの砂状化層以外に付着した 金の表在物は有るが薄い。 49.61m 25°割れ目は地質割れ目と一致。下の地層で7本の 10~30°割れ目20~25°(主軸不明)。本割れ目の地層 厚さは薄く連続する。 49.93~50.76m 50~60°の割れ目、低角度割れ目が150°傾斜に1~3cm/10 幅で分布する。 割れ目の一部は薄く砂状化(10μm以下)の比較的粗 粒状砂。粗粒は粒径20μm以下に連続するものは殆んどない。 50.76~51.24m 硬土Bで埋没する。 50.6割れ目と平行に。50.4m 55°幅2mmの砂状化層以外 は表在目の表在物は有る。 51.24~52.13m 硬土Bの進行が急激で、全体の硬土C主体。 互いに直交する40~60°の割れ目、低角度割れ目から割 れ目と平行な割れ目と交差する60~80°分布する。 割れ目の一部は砂状化(砂状化)し、幅1~2mmの粗粒な 明変性色(10YR 7/6)の粗粒な砂状化層分布する。 51.24m 40°幅5mmの粗粒な硬土(25YR 6/3)が連続的に 連続する。下地層5~8cmに厚く砂状化(緑泥石化)する。 51.93~52.13m 硬土Cの分布。51.93m 厚さ10mm前後に 粗粒化(老片)の一部厚20~40mmの粗粒の粘土が分布する。 52.13~52.28m: 破砕層 52.13m: Hc-1 50°幅4~5mmの粗粒な硬土(25YR 6/3)の粘土で 1mm前後の石英粒を含む。地層断面で有る。 52.13~52.16m: Hb 上部盤、下部粘り。上部は硬軟の20~30°、下部は 一部不明な粘り層で連続する。 4~20mm石英粒、3~5mmの石英粒を含む硬土粘土で 粘土は圧縮(25YR 6/2)と呈する。全体の色調は明褐色 (25YR 7/2)で厚さ5~10mmで粘り層(20μm)。 52.16~52.28m: HJ 上部粘り。下部60°で、両者の一部不明な粘り層で連続 連続する。 4~10mmの粘土化~硬土Dの老片が3層に老片 層に粗粒の圧縮粘土層が同様に分布する。20μm 52.20m以下層212~220°傾斜で、粘り層は厚さ20~25 mmの厚さ不明な層有る。色調は明褐色(25YR 7/2)で厚さ120mm (17層) 52.28~52.51m 95~100mmの硬土Dの粘り層の砂状化の粘土層の基底から 有る角礫構造部(カダレサト)。 基底の一部には200μmの粗粒の粘土層が分布する。粘り層。 52.51m 48°割れ目の上地層15~20mmに差気緑泥化(粘 土化)。 52.51~52.60m 割れ目 上部粘り。下部50°の割れ目。全体が軟化層(10μm)の 粘土化は殆んど分布する。</p>
51	50.76 51.54				b	IV	B			0	b		
52	51.93 52.00 52.13 52.16 52.28				c	v	c		3				
53	52.51 52.60 52.75 52.93			25YR 6/3 不明な色	d	v	c		3				
54	52.93 54.00				c	v	c		2				
55	54.00			25YR 6/2 灰褐色	b	IV	B	Y	2		Cm		

調査名		孔番・深度		D1-3 (55.00 ~ 60.00)		観察日		5/28					
標尺 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分				最大コア長	岩級区分	破碎度区分	記事・破碎性状・詳細スケッチ等	
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化					変質
5/28	55.18		gp	2.5YR 1/2 灰褐色	b	IV	B	γ	2				52.60 ~ 52.85m 約30cmの長さ「c」コアの割れ目角状構造が あり、上位は比較的硬土の基礎は認めない。 粘土はコアの下部部一部に認められる。 52.72m - 45°の割れ目は多数の交差割れ目も認められる。 (52.60 ~ 74)
	55.53	c			V	C	δ	3			C2	52.85 ~ 52.93m 上下部45°の割れ目同様、全体が粘土(軟化部)部 破砕Dと多量認められる。 45 ~ 60°の連続性のある短い低密度割れ目一部に 幅1 ~ 4mmの白色〜2mm程度(5YR7/4)の軟弱粘土の 付着(2m)。	
5/28	56.21		gp	2.5YR 1/2 灰褐色	d	VI	E		3	0	b		52.93 ~ 53.29m 40 ~ 50°と70 ~ 75°の割れ目と低密度割れ目同様に 認められる。一部は深さ2cm程度。 53.29 ~ 53.50m 互いに交差する50 ~ 70°割れ目、低密度割れ目あり。 割れ目一部は幅1 ~ 3mm前後の白色〜灰色の軟弱粘 土の付着(2m)。断面は硬土(2.0)である。
	56.88	v			D	Y	3						53.50 ~ 53.62m 粘土(軟化部)、圧縮の軟弱粘土の幅1 ~ 3mm程度に 認められる。
5/28	57.15		gp	2.5YR 1/2 明褐色	d	VI	E			0	4		53.62 ~ 54.20m 硬土「c」コアで、40 ~ 50°の割れ目がほぼ平行に分布する。 割れ目の幅は1 ~ 2mm程度、一部は深さ2cm程度の 粘土の付着も認められる。 54.20m - 45°割れ目幅3 ~ 6mm程度の粘土の付着は認め られ、20cm程度に及び、黒褐色化する。
	57.24	c			V	D	δ	3					54.20 ~ 54.18m 互いに交差する50 ~ 60°割れ目と互いに54.13m - 50° 割れ目の幅2 ~ 3mm程度の粘土付着以外は割れ目は粘土 化部が認められる。 粘土付着は硬土Bで比較的割れ目は少ない。
5/28	58.03		gp	2.5YR 1/2 明褐色		IV	C	γ	2				54.18 ~ 56.21m 40 ~ 60°割れ目と互いに50°前後の連続する40 ~ 50°の互いに55.53 前後の硬土R状の割れ目も認められる。深 割れ目幅は1 ~ 2mm程度。粘土は認めない。 55.49m - 55.53m - 45°の割れ目と同様に割れ 目は互に交差(緑泥化)した。若割れ目1 ~ 3mm程度の粘 土の付着は認められ、粘土厚約1 ~ 2mmの黄褐色粘土 の付着(2m)。
	58.27	d			VI	E	δ	3					56.49m - 15°緑泥化割れ目あり。交互の割れ目同様に(交互 位置は10 ~ 15mm程度)。 56.58m - 55.18mの交互の割れ目と交互の割れ目同様に (交互位置は3 ~ 4mm程度)。
5/28	58.53		gp	2.5YR 1/2 明褐色	c	V	C						56.21 ~ 56.88m 40 ~ 60°割れ目と低密度割れ目が一様(1 ~ 2cm)に平行に 分布する。割れ目は幅1 ~ 2mm程度の粘土付着は認め ない。 56.71m - 45°割れ目幅1 ~ 2mm程度の粘土付着は認め られる。 56.88 ~ 57.24m : 破砕帯 56.88 ~ 57.15m : HJ 上部40°、下部58°で、上部は連続的50°に、下部は 波打て連続。
	58.91	b			V	B							
5/29	59.90		gp	2.5YR 1/2 明褐色						0	5		
	60.00	c			C								

↓深さ

調査名		孔番・深度		D1-3 ( ~ )		観察日		記号					
標尺 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分				最大コア長	ROD	岩級区分	破砕度区分	記事・破砕性状・詳細スケッチ等
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化					
													<p>57.15~57.20m: Hb</p> <p>上部砂、下部60°Z、上部は波打り、下部は波打りして連続的。</p> <p>57.20~57.24m: H0</p> <p>上部60°、下部60°Z、上部は連続的に波打り、下部は一部連続的に連続。</p> <p>57.24~58.03m</p> <p>20~60割れ目、低密着割れ目0.1~3cm間隔で平行に分布。割れ目は一部砂状化、100.5~1.0mmの軟弱な圧縮粘土状の一部は認められる。</p> <p>58.03~58.29m</p> <p>互に交差する30~70割れ目、低密着割れ目0.1~0.5cm間隔で分布。割れ目の一部は砂状化している。</p> <p>58.29~58.53m</p> <p>5~30mmの硬さの砂と細砂状の粘土が互に層状に分布。58.33~40割れ目、厚さ0.5~3mmの軟弱な圧縮粘土(2.5YR 7/2)粘土層が互に層状に分布。40~48.46m間の一部は20cm程度の低密着割れ目と連続している。</p> <p>58.53~60.00m</p> <p>互に交差する30~70割れ目、低密着割れ目0.1~0.5cm間隔で分布。上部割れの58.53~58.91mと下部割れの58.90~60.00m(7割れ目)は連続的に分布している。58.66~58.71mの砂状化と互に連続して層状に分布している。</p> <p>58.71~58.90mの割れ目は互に連続的に分布している。</p> <p>58.90~60.00mは割れ目互に連続して分布している。</p> <p>59.46m、45割れ目、互に5~10mm程度の砂状化(緑泥石化)は、0.5m以下に連続して分布している。粘土は一部粘土層は認められる。</p>

H24-D1-2

# 第四系コア観察カード

調査名		孔番	D1-2 (60')	観察日	3/19		
標尺 (m)	深度 (m)	イベント・地層境界	スケッチ	マーカ- 火山灰物 炭質土貝片 化石	地質名	色調	堆積構造・特徴等
1	0.2		[Sketch: Small dark fragments]		碎石	1.0/1 黒	φmax 3cm. 黒色の細粒砂岩・頁岩片
2			[Sketch: Sandstone with pebbles]		盆 工	10YR 5/8 黄 褐	砂礫 φmax 5x8cm. の肉砂岩。大半は10%以下の細砂〜粗砂が主。粒度不均一。細粒分は少量あり。ルーズである。大半は花崗斑岩であり、アプライト層である。稀に黒色の頁岩片(?)も含まれる。
3	2.8		[Sketch: Sandstone with pebbles]			10YR 6/8 明 黄 褐	細粒砂礫 φmax 1.6cm. 大半は花崗斑岩礫であり、アプライト礫も含まれる。細粒分は少量。上層層別、締り加減。2.3~2.45m区は粗粒岩礫が混入。
4			[Sketch: Soil profile]				盛土

スケッチ: 礫はクサリ ● 半クサリ ◐ 硬質 ○ 礫種は黒雲母花崗岩Gr, 花崗斑岩Gp, アプライトAp 等  
境界 明瞭 — 不明瞭 - - - 亀裂は赤線, 角度, 条線等

# 第四系コア観察カード

調査名				孔番	D1-2 (E)	観察日	3/19
標尺 (m)	深度 (m)	イベント・地層境界	スケッチ マーカー 火山灰物 土壌化石 貝片	地質名	色調	堆積構造・特徴等	
5			Gr	礫土		<p>4.85mより上は=炭灰初片あり。</p> <p style="text-align: right;">礫土</p>	
6	4.8/		Gp	礫岩		<p>4.8/で礫岩</p> <p>礫岩</p> <p style="text-align: center;">↓ 基盤コア観察の参考</p> <p style="text-align: right;">6.81m</p>	
				Gp			

スケッチ: 礫はクサリ ● 半クサリ ◐ 硬質 ○ 礫種は黒雲母花崗岩Gr, 花崗斑岩Gp, アプライトAp 等  
境界 明瞭 — 不明瞭 - - - - 亀裂は赤線, 角度, 条線等

調査名		孔番・深度		観察日								
		D1-2 (6.8/ ~ 10)		3/20								
標尺 (m)	深度 (m)	境界・亀裂位置	地質名	色調	細区分				最大コア長 ROD	岩級区分	破碎度区分	<b>基盤岩コア観察カード</b> 記事・破碎性状・詳細スケッチ等
					割れ目状態	コアの形状	コアの硬さ	風化				
0.5												
6												
0.5	6.8/											
7			Gp	2.5YR 7/3 1.5の値	e	V	D	δ	2	0.3	C <sub>L</sub>	4.4系コア観察カード参照 ↑ 4.2~10.0mの石英と長石の斑晶ロジの花崗斑岩(Gp)で、長石は白濁化している。 6.8/ ~ 10.50m 40~60°の割れ目と低角度割れ目の主体で、一部で、45°の斜交~近交角の40~60°割れ目も分布。 割れ目の一部は月化で、薄く砂状化している部分に軟弱な白色粘土は付着しているものもある。
0.5												
8										0.5		
0.5												
9										0.7		
0.5												
10										0.7		